



▲雲に覆われた安達太良山を背景にざる菊の咲く庭で

東日本大震災の年に、生まれ育った岩代地域にUターンした佐藤実さん。陶芸教室を主催し、美術教室、山の会を始め地域サロンでも取りまとめ役を務める佐藤さんに、移住して改めて思うことや日々の暮らし、今後の抱負等について伺いました。

「自然の中で悠々と暮らす喜び。趣味の仲間に囲まれ充実した毎日です」  
佐藤実さん

# かわら版



**Q 今の生活に思いつことは?**  
リビングの窓越しに安達太良山が眺められ、晴れた日は裾野まで稜線がくつきりと見えます。

**Q 移住を決めた理由は?**  
当時、千葉に住んでいました。が、定年退職を機に「残りの人生を悔いなく過ごしたい」と思い、自然の豊かな候補地の中から岩代を選びました。友人知人がいることや、実家の土地があることも決め手でした。ね。  
家は見晴らしの良い畑だった場所に建てました。西に安達太良山が、東に日山や羽山が一望できて、隠れ家的な雰囲気が入っています。



▲リビングからも正面に安達太良山が眺められるよう設計からこだわった

**Q 今後の抱負や夢は?**  
好きなこと、興味のあることにチャレンジしてききましたので毎日が充実しています。今の活動を続けていくだけでもけっこう忙しいですが、実はもう一つ

雲と山の織りなす風景や四季の移り変わりをみるのが毎日の楽しみです。  
ありがたいことに陶芸教室も十周年を迎え、週に二回、午前と午後に分けて行っています。また、山の会では月に一度山に登りますが、同じ趣味を持つ仲間がいることは心強いです。  
あのまま千葉にいたら今のような暮らしはなかった。残りの人生をここで送れて、本当に良かったと感じています。

## 佐藤実さんの陶芸教室レポート

佐藤さんは月曜日は自宅にて、水曜日は上長折の尚創庵にて午前と午後に陶芸教室を開いています。そこで10月に行われた尚創庵での教室の様子を紹介します。

### ★10月6日：上釉（うわぐすり）をかける

土練り→成形（手びねり、ろくろ）→乾燥→素焼きの工程を終え、上釉をかける段階。釉薬は8種類ほど用意。「どれを使おうかな」などと迷いながら作業をする様子が楽しそうでした。



### ★10月13日：本焼き→窯出しをする

皆さんの作品を窯から出す作業が行われました。焼き上がった自分の作品を手に取り、興味深い様子。「色が良く出たね」「釉薬が多すぎたみたい」など意見交換も活発でした。



▲美術教室に通い始めたのも「絵付けを学びたい」と思ったのがきっかけ

やり遂げたいことがあります。これまでに西国・坂東・秩父を含む日本の代表的な百観音を巡り、会津三十三観音巡りも終えましたので、次は奥州と安達の三十三観音を巡りたいです。安達の御朱印帳は在庫切れのため自分で手作りして準備し、今から楽しみにしています。

# 岩代観光協会主催 秋の里山視察ツアー レポート

11月6日、岩代観光協会主催でインバウンドも視野に入れた《秋の里山視察ツアー》が行われました。「おもてなし福島通訳ガイドの会」の代表、朝倉久美子さんをはじめ、会員の皆様の協力で、県内在住の外国人など15名が参加し、岩代や東和の名所、史跡を訪問しました。



▲蔵書総数約8万3000冊。静かな雰囲気癒される

I Love Iwashi 12  
岩代図書館

岩代を愛する人がすすめる地の魅力あるスポットを紹介。十二回目は、岩代図書館館長の齋藤和典さんです。



▲合戦場の桜。「春にまた来たい」「桜回廊を歩きたい」という声寄せられました



▲農家民宿清峰園で昼食タイム。新米おにぎり、おこわや芋汁が大好評



▲杉沢の大杉にも訪問。「豊かな自然が岩代の魅力」と参加者の声

### ★企画担当者コメント★

地域おこし協力隊：有野真由美さん「参加者からいただいた意見や助言を参考に、今後は少人数の日本人対象ツアーも企画し、多彩な岩代の魅力を県内外に発信していきたいです」

内部はゆったりとした間取りでカウンター席やソファ席はガラス壁に面して配され、中庭を眺めながら読書を楽しむ人の姿も見受けられます。約六千点の映画やDVDのコレクションがあり、視聴覚コーナーでは昔懐かしい名画鑑賞も

「遠くに安達太良山が見える高台に建つ岩代図書館は、平成五年四月にオープンしました。県の建築文化賞特別部門賞を受賞したモダンな外観と周囲の緑が調和し、季節ごとに訪れる人の目を楽しませてくれます。



### ◇紹介してくれた方◇

岩代図書館館長  
齋藤和典さん



「図書館から見える安達太良山のシルエットをかたどったオリジナルブックカバーを制作するなど、職員一同、アイデアを出し合って広報活動に努めています」

楽しめません。飲食ができる談話室や畳敷きの「絵本の部屋」も人気の空間です。また一昨年より市内の小学生を対象に「子ども司書講座」が開催され、岩代地域では三人の子ども司書がイベントの手伝いや本の紹介文を書くなど積極的に活動しています。月に一度お話し会が開催され、ボランティア団体による絵本の読み聞かせも行われています。七月は七夕会、十二月はクリスマス会を兼ねて行われます。ぜひお子様とご参加ください」。

## 岩代の歴史シリーズ

### 「塩の道」④

「塩の道」奥州西海道。厳しい峠越え、馬一頭通るのがやっとなという貧弱な道にもかかわらず、相馬藩は参勤交代の帰路に利用したのだろうか。行程が三里も近かったこともあるが、奥州浜街道は徳川御三家水戸藩の城下を通るため、遠慮と、通行の承諾手続きや土産が大変だったのではと推測できる。

なにしる相馬藩の財政は相次ぐ飢饉で困窮していたのである。幕末、石灰、御用硝石、にがり、が戊辰戦争直前にこの道を通っている。「にがり」は豆腐製造の他、城壁築造に不可欠のものである。「石灰」は相馬から小浜の名主水梨郡右衛門宛に急送されている。開戦を控えて二本松城修築に備えたのであろうか。また、鉄砲の火薬の材料であった「硝石」は山木屋の菅野亀之助が「御用硝石方」として、小浜を経由し安積郡の安子島に密送している。江戸（幕府）から会津へ密送されたものではなからうか。歴史の教科書で学んだ戊辰戦争。身近な海道もその歴史の舞台であった。